様式1

令和５年度　学校評価表

学校教育目標	「心豊かで自ら求めて学び生き生きと活動する生徒の育成」
a ミッション	組織的な学校経営を生かした小中連携教育による主体性・表現力の育成
	aビジョン 生徒が「因北中で学んでよかった」，保護者が「通わせてよかった」，地域の方々が「地域の宝である」と思える学校

尾道市立
因北中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
						7月	1月				k 二次評価				
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f目標値	g 達成値	g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
【校訓】　進取気質の継承	授業改善による確かな学力の定着	表現力を高める活動の充実を通して，学びを深め，学力の定着を図る。	1　主体的・対話的で深い学び 学習課題の解決に向けて，疑問を表明したり相互に説明し合う場面を設定し，表現力やコミュニケーション能力を育成する。 2　ICTの活用 ICTを有効活用し，授業改善を図る。	「授業では，友だちと話し合うなどして，自分の考えを深めたり広めたりしている」生徒の肯定的回答 「ICTを活用して，学びが深まっている」生徒の肯定的回答	８０％以上 ９０％以上	91.7% 64.4%		114% 71.5%	A C	・授業で話し合いの場面を設定して，考えを交流することが定着してきている。話し合いの型を提示し，考えを深めるよう意識した取組をしている。今後は理由と根拠を明確にして相手に伝わりやすい表現を考える取組が必要である。 ・教員全員がICTを活用して授業作りに取り組んでいるが，学力向上に効果的な活用までは至っていない。研修を重ね，ICTを有効活用できるようにすることが課題である。	○			・「深い学び」を目指し，すべての授業で「話し合いの型」が定着している。「理由と根拠を明確にする」取組を，国語科だけでなく，すべての教科で行ってほしい。 ・「話し合うことなどで考えが深まる」と感じる生徒が９０％以上というのは素晴らしいと思う。これが授業で当たり前になると自ら学ぶことに確実につながると思う。 ・ICTの活用については，何もかもではなく，どのような時に，どのように活用していくことで学びにつながるのか，教員の実践を検証しながら進める時期なのではないか。 ・先生が一方的に話して教えるという方向から，子どもたちが話し合って解決に導くという方向はいいと思う。 ・「ICTを活用して学びが深まっている」の達成値が低いのは，ICTの使い方の理解度が深まっていないのではないか。 ・学力調査の結果だけでなく，生徒主体の授業を行ってほしい。	・話し合い活動に加え，話す際に理由と根拠を明確にして伝えることを，掲示物と教員の声かけにより定着させていく。 ・これまでのICTの活用について検証し，どの場面でどのような使い方が効果的なのかを明確にしていく。 ・家庭学習を充実させるため，各学年ごとの時間の目安を提示し，宿題ボードを活用して宿題の量を調整しながら学習内容を定着させる。 ・各種学力調査の結果分析をもとに，授業改善と効果的な家庭学習を示す。
			表現力を高める活動の充実を通して　分かりやすい授業づくりを進め，学びを深め，学力の定着を図る。	「授業がよくわかる」と答えた生徒の肯定的回答 標準学力調査，全国学力調査での全国平均以上（５教科，４月・１月）	85%以上 全国平均以上	82.5% （2年生） 国+1.8　数−0.1 社−2.7　理−5.2 英+0.2 （1年生） 国+2.8　数+5.0 社+2.2　理−1.0		97% 103%	B A	・本校の授業スタイルである「咲く咲く復習」を全教科で取り入れることにより，既習事項をいつでも活用できる状態にしている。今後は家庭学習をさらに充実させ，学習内容を定着させる。また，校内授業研究を通して，各教科の授業力向上に引き続き取り組む。 ・2年生数学，社会，理科，1年生理科が学年平均を下回った。領域や観点別から分析し，課題を明確にして授業改善に取り組む必要がある。	○				
	積極的な生徒指導の推進	自主的・主体的な活動を通して，自己肯定感を高める。	生徒会活動を活性化させ，一人一人が役割を主体的に果たし，諸活動の充実を図る。	「学校が楽しい」生徒の肯定的回答 「自分には良いところがある」生徒の肯定的回答	８０％以上 ８０％以上	79.6% 69.4%		99.5% 86.8%	B B	・学校行事などをコロナ禍前とほぼ同様に開催することができ，保護者や地域の方に生徒の頑張っている姿を見てもらう機会が増え，生徒も前向きに取り組もうとする姿が多くみられるようになった。 ・生徒会を中心に，「いいねツリー」を作成し，生徒同士の頑張りを認め合えたり，励まし合ったりできるような取組を行った。 ・生徒は様々な場面で一生懸命取り組み，活動しているが自分に対して自信を持てない生徒が多いことに課題がある。教育活動の中で，成功体験を積み重ね，教師が頑張りを評価し自己有用感や自己肯定感を高めていけるような取組を進めていく必要がある。	○			・自己肯定感の低さは，どこの学校でも課題となるのだと思うが，小さなことから自信を持たせる取組を行ってほしい。 ・「学校が楽しい」と感じる生徒の割合が高まってきているのはよい傾向ではないか。 ・「自分には良いところがある」という，自己に対する思いを高めるため，小学校との連携を含め，（体験等の）積み重ねを大切に取り組んでほしい。	・「やり取りシート」を定着させ，生徒の良いところや頑張ったことを多面的に評価できるようにしていく。 ・「いいねツリー」の取組を継続して行い，生徒相互で励まし，協力していく風土をつくっていく。 ・個別面談やアンケート調査などを学期に１度は必ず行い，生徒の実態把握に努め早期対応することで，新たな不登校をつくらない。また，学校に来ることが難しい生徒には積極的にＳＳＲを活用し，学校とのつながりを切らないようにしていく。
		生徒が，安心して生活できる学校づくりを進める。 ◎不登校SSR推	SSR，SC，教育支援センター等と密接な連携を図り，生徒が抱える多様な課題の解消を図る。	「安全・安心に学校生活を送れている」生徒の肯定的回答 不登校生徒の人数	１００％ 10人以下	90.4% 5人		90% 100%	B A	・アンケートや個別面談を実施し，生徒それぞれの不安や課題について話ができるよう取り組むことができた。 ・悩みを抱える生徒や課題を持つ生徒へ，ＳＳＲの積極的な利用の推進やＳＣ等の外部の専門的人材とつながることで，早期対応することができた。	○				
	体力の向上と健康の増進	基本的生活習慣の確立や，体力・運動能力の向上を図る。	1 基本的生活習慣を整える。 2 保健体育や部活動を通して，体力の向上を図る。	平日（月～金）1日あたりのゲームやスマホの使用時間　2時間以下の生徒の割合 年間2回（前期・後期）の新体力テストにおいて，総合値が向上した生徒の割合	2時間以下 70%以上 80%以上	47% 年間を通して実施		67.1% —	C —	・今年度はスマホ教室を参観日に実施し，保護者とともにスマホの利用について考えることができた。しかし，日々の利用時間については目標値を達成することができなかった。 ・新体力テストは生徒１５３人中全ての実施は１２１人。うち，A１１％（１３人）B２８％（３４人）C３５％（４３人）D２０％（２４人）E７％（８人）だった。後期で総合値の向上を図る。	○			・ゲームやSNSの長時間使用による視力低下やインターネット上でトラブルが起こる可能性が高くなるので，使用時間を減らしてほしい。 ・体力について限られた時間の中で運動量をしっかり確保してほしい。 ・部活動において，個々に合わせた体力の向上に取り組んでほしい。	・保健だよりや掲示等によりスマホの長時間使用が与える眼の影響について考える機会を増やす。 ・体育の授業導入において補強運動を行い，総合的な体力の向上を図る。 ・部活動前の時間に5分間走を実施し，生徒の個々の能力に合わせて全身持久力の向上を図る。
	働き方改革の推進 信頼される学校づくり	組織として，業務改善，信頼される学校づくりを進める。	1　生徒に向き合う時間を確保するため，各分掌で現在の業務の軽減や効率化を図る。 2　マニュアルの遵守を通して，不祥事の未然防止を徹底する。	「日々の業務の中で，充実感を得られている」教職員の割合 教職員の勤務時間外の在校時間の平均 不祥事０	80%以上 1カ月の時間外の平均４５時間以内 不祥事０	80% 61時間 （4～6月） ０		100% 73.8% 100%	A C A	・「日々の業務の中で，充実感を得られている」と答えた教職員の割合は目標値に達している。しかし，人数で見ると，3名の教職員が「そうではない」と感じていることになる。どのような時に充実感を感じるのかを考える機会を持ち，業務改善とのバランスをとりながら改善に向けた取組を考える必要がある。 ・4月～6月の時間外勤務時間の平均は目標値を大きく上回っている。部活動や授業準備，保護者連携に必要な時間の削減は難しく，「何が減らせるか」各自で考え，アイディアを出し合うことが必要である。 ・不祥事事案は生起していない。各種マニュアルを遵守するという意識を持って業務に当たることができている。	○			・「充実感を感じる」は，人によって基準が違うので，低いレベルで充実していると感じて満足していてはいけない。むしろ，「充実感を感じない」と答えた人は，他の人より目標・満足度が高いのではないだろうか。 ・先生方が，働きやすい雰囲気の中で頑張っている姿が浮かんできた。 ・充実感80%はまずまずらしい，その他の先生については，面談や日頃の声掛けなど様々な形で取り組んでおられるだろうと思う ・時間外在校時間の削減は難しいと思うが，メリハリをつけた活動（今日は何時まで）をして，5分，10分早くするにはどのように段取りをすればよいか考えて行動すると良いのではないか。	・自分はこの仕事のどこに，どんな時にやりがいや充実感を感じるのかを考えてみる機会を作り，どのような働き方がしたいのかをしっかり持って，業務を進められるように取り組む。 ・定時退庁日の徹底。休業日の生徒引率はなるべく出張とし，週振をとるようにする。 ・計画的に5時間授業の日を設定する。 ・年休を計画的に取得するよう，学年主任を中心に調整を行う。 ・不祥事０が継続できるよう，油断せず，気になることは声に出せる職場環境づくりを進める。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【学校関係者評価】
イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。
ハ：わからない。